

【R 1 8】会話形式ノベル（台本仕様）

『ねえ〇〇君、〇ち〇ちんを見せてよ』

作：七条右京

【登場人物】

はしもとことね
・ 橋本琴音：女子生徒

みちばともひと
・ 道場智仁：男子生徒

ほうじょう ゆいな
・ 北条 結菜：女教師

**橋本琴音は、性に対しての興味と性欲が強く、
いつも男のコのおちんちんを見たいと頭の中で
思っていた。**

**とうとう欲が抑えられず、断られるのを覚悟で
隣の男子の道場智仁に、**

「ねえ、おちんちんを見せてよ」

と言ってしまふ。

智仁は断りもせず、オーケーしてしまふ。

**誰も来ない視聴覚室に行つて、早速おちんちん
を見せてもらった琴音。**

その時、突然戸が開き、誰かが入って来た。

さて、それから二人はどうなる？

○放課後の教室

隣同志の席に座っている琴音と智仁。

橋本琴音：

「ねえ道場君、私のお願い聞いてくれる？」

道場智仁：

「なんだよお願いって」

琴音：

「あのね、言いにくいんだけど」

「あのね、えっとね」

智仁：

「いいよ、遠慮せずに言ってみろよ」

琴音：

「それじゃあ、思い切って言うね」

「但し、変なコだと思わないでね」

「私、道場君のおちんちんが見たいの」

「私、もう欲求が抑えられないの」

「ねえ、お願いだから」

智仁：

「お前、凄い事言うな」

「女子高生が言う言葉か？」

**「でも、思い切って言ったんだから、いいよ、
見せてあげるよ」**

「但し、少しだけだぞ」

琴音：

「やったあ、ありがとう」

智仁：

「なあ、何処で見せればいいんだよ」

「ここでじゃ、やだぞ」

琴音：

「私、視聴覚委員をしてるから、視聴覚室に自由に入れるの」

「あそこなら人が来ないわ」

「ねえ、行こう？」

智仁：

「分かったよ」